

研修の様子＜概要＞

研修名	社会教育委員・担当者 共に学ぼう！研修																											
日時	12月4日（木） 10:00～15:45																											
場所	あすてらす																											
テーマ	～未来を見据え、学びを動きにつなげる「社会教育委員」と「担当者」～																											
日程	<table><tr><td colspan="2">9:30 10:00 10:15</td><td colspan="2">12:00 13:00</td><td colspan="2">13:40 13:55</td><td colspan="2">15:15 15:35 15:45</td></tr><tr><td>受付</td><td>開講行事</td><td>【講義・質疑応答】 (90分・15分)</td><td>昼食 休憩</td><td>【実践発表・ 質疑応答】 (30分・10分)</td><td>休憩</td><td>【演習】 (80分)</td><td>【全体講評】</td><td>閉講行事</td><td></td></tr></table>										9:30 10:00 10:15		12:00 13:00		13:40 13:55		15:15 15:35 15:45		受付	開講行事	【講義・質疑応答】 (90分・15分)	昼食 休憩	【実践発表・ 質疑応答】 (30分・10分)	休憩	【演習】 (80分)	【全体講評】	閉講行事	
9:30 10:00 10:15		12:00 13:00		13:40 13:55		15:15 15:35 15:45																						
受付	開講行事	【講義・質疑応答】 (90分・15分)	昼食 休憩	【実践発表・ 質疑応答】 (30分・10分)	休憩	【演習】 (80分)	【全体講評】	閉講行事																				
内容	<div><div><p>【講義】「よきこと」をつなぐ、「よき存在」になる 一子どもたちの「ふるさと」をつくる/社会教育委員・担当者の役割を考えるー 大正大学教授/東京大学名誉教授 牧野 篤 氏</p><ul style="list-style-type: none">・語りあって当事者になる・社会教育の概念を問う・CompassionとWell-being（思いやり・我が事化と幸せを感じること）・GenerativityとTranscendence（次世代への関心・かかわりと老年的超越）・社会教育主事・社会教育士の新たな役割・「はまる」と、「動く」人間観・社会観を変える・PDCAからAARへ方法論を変える・Be-ingであることでDo-erになる</div><div><p>【実践発表】 「地域で活躍する安来市社会教育委員」</p><div><p>安来市社会教育委員の会 安来市市民生活部地域振興課担当者</p><ul style="list-style-type: none">・安来市の社会教育委員について・地域で活躍する社会教育委員</div></div><div><p>【演習】 「未来を見据え、学びを動きにつなげる『社会教育委員・担当者』をめざして」</p><div><ol style="list-style-type: none">①「社会教育委員・委員の会として、今後やりたいこと」をワークシートに記入する。 ➡記入した内容をグループ内で紹介し意見交流をする。②「それを実行に移すため、どう動き出すか」をワークシートに記入する。 ➡記入した内容をグループ内で紹介し意見交流をする。</div></div></div>																											
アンケートから	<ul style="list-style-type: none">・これからの町の姿のとらえ方、意義の変革・世代を超えた関わり、交わることの意味と大切さ・行政と地域の関わり、関係の深さ、委員の存在感・教育現場、生徒と地域との関わり、受け入れ、協働これらを多く学べました。・心に残ったキーワード→"AAR" "ふるさと" "ウェルビーイング"→『AARを心がけ、ふるさとを目標に、ウェルビーイングを目的に』と思いました。・社会教育委員と担当者の方々が一堂に会する研修は貴重で、横のつながりをつくる良い機会となりました。特に演習では、それぞれの現場の課題感を共有でき、有意義な研修でした。・人のつながり、コミュニケーション、対話、多世代との関わり、一人一人が幸せを感じる、自分ごととして、など、活動のヒントになる言葉がたくさんありました。今後自分の活動にいかしていきたいと思います。・全体講評の中での言葉が印象に残りました。一緒に悩むこと(見捨てられない)、伴走支援していく、これがまさに社会教育に必要なことだと思います。まわりにいつも居るよという存在になりたいです。																											